



がん検診を正しく受けよう

指導：国立がん研究センター がん予防・検診研究センター センター長 津金 昌一郎

企画：
日本医師会

No. 443

がん検診を受けるメリット

日本人が亡くなる原因の第1位が、がんです。そこで、がんを早く発見して、がんによる死亡率を減少させるために、国の健康増進事業として各市区町村でがん検診が実施されています。

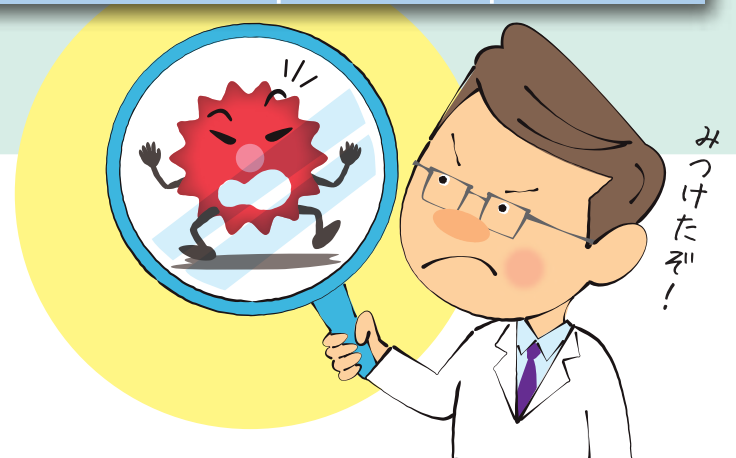
がんが発見された場合に、早く治療を開始することにより、治療後の生活の質(QOL)の向上や治療にかかる医療費の軽減に結びつくことも期待されます。

現在、厚生労働省では、5種類のがん検診を推奨しています(表)。この5種類のがんは、がん検診を受けた場合と受けなかった場合を比べて、がんによる死亡率が減少することが研究により明らかにされています。

種類	検査項目	対象者	受診間隔
胃がん検診	問診及び胃部エックス線検査	40歳以上	年1回
子宮がん検診*	問診、視診、子宮頸部の細胞診及び内診	20歳以上	2年に1回
肺がん検診	問診、胸部エックス線検査及び喀痰細胞診	40歳以上	年1回
乳がん検診	問診、視診、触診及び乳房エックス線検査(マンモグラフィ)		2年に1回
大腸がん検診	問診及び便潜血検査		年1回

表

※ 問診の結果、子宮体がんの有症状者である疑いがある場合は、まず医療機関の受診を勧奨。ただし、本人が同意する場合には、子宮頸部の細胞診に引き続き子宮体部の細胞診を実施。



健康な人へのデメリット

がん検診を受けるのは健康診断と同じように、症状がない健康な人です。しかも、皆が検診対象とされているがんにかかったり死亡するわけではないため、恩恵を受けるのは一部のみに過ぎません。検診による健康な人の身体への負担やかかる費用・時間に加えて、偽陽性^{*1}、偽陰性^{*2}、過剰診断^{*3}などが起こるといったマイナス面もあります。5種類のがん検診については、このようなデメリットを上回るメリットがあるものと判断されています。

正しく受けるとは

各市区町村や職場で定期的ながん検診を受けて、もし陽性と判定された場合は、必ず精密検査を受けてください。がんが疑われ、精密検査を受けて、初めてがん検診を正しく受けたといえます。

なお、がん検診はあくまで健康な人を対象にしていますので、自覚症状がある人は医療機関を受診しましょう。

*1 偽陽性……がんがないにもかかわらず陽性となる
*2 偽陰性……がんがあるにもかかわらず陰性となる
*3 過剰診断……生命予後を脅かしたり症状をもたらしたりしないようながんの診断